

## なぜ日本の学校にアクティブ・ラーニングが必要か

平成 26 年 11 月 20 日の中央教育審議会に文科省が諮問した「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方」の要点をまとめよう。

### <新しい時代に必要となる資質・能力開発の取組>

- ①OECD が提唱するキー・コンピテンシーの育成に関する取組がある。
- ②論理的 思考力や表現力, 探究心等を備えた人間育成を目指す国際バカロレアのカリキュラムがある。
- ③ユネスコが提唱する持続可能な開発のための教育 (ESD) などの取組がある。

### <それらの取組の共通点>

- ①ある事柄に関する知識の伝達だけに偏らず, 学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育である。
- ②子どもたちはそうした教育のプロセスを通じて, 基礎的な知識・技能を習得する。
- ③そして, 実社会や実生活の中でそれらを活用しながら, 自ら課題を発見し, その解決に向けて主体的・協働的に探究し, 学びの成果等を表現し, 更に実践に生かしていけるような力を育てる。

### <その力を育成する方法>

- ①「何を教えるか」という知識の質や量を改善する。
- ②「どのように学ぶか」という, 学びの質や深まりを重視する。
- ③課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習 (いわゆる「**アクティブ・ラーニング**」) や, そのための指導の方法等 を充実させていく。
- ④ 学びの成果として「どのような力が身に付いたか」に関する学習評価の在り方を工夫する。